

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100818		
法人名	社会福祉法人 健成会		
事業所名	グループホームほがらか		
所在地	熊本県熊本市南区御幸笛田6丁目6番88号		
自己評価作成日	令和5年2月4日	評価結果市町村受理日	令和5年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
----------	-------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和5年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

みゆきの里の医療・保健・福祉の各施設は、地域に開かれた社会資源として「健康長寿のまちづくり」を目指しています。その中で「グループホームほがらか」は、小規模多機能型居宅介護と併設した認知症対応の拠点施設として、運営に当たっています。事業所としては、年間を通して、自律支援ケアの確立に向けた委員会活動を立ち上げ、職員の質の向上に繋がる組織づくりを行っています。現在は、新型コロナウイルス感染症対策のため、休止していますが、認知症対応ボランティア(De-bo: デーボ)の協力を仰ぎ、地域住民との関わりや行事への参加を促すとともに、平成27年度に開設した認知症カフェ「ひまわり」の中で、みゆきの里内外の方との交流を図っていました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本年度ホームでは長引くコロナ禍にあっても、社会の状況を見ながら少しずつ地域へ出る機会を企画したり、隣接する小規模多機能ハウスと共働でホーム花壇を作るなど、入居者の活動の幅を広げるよう努力している。一人ひとりの入居者がやりたいこと、したいことを引き出し、叶えるための「夢プラン」は大地震から見事に復興に向かう懐かしい熊本城の見学や、生まれ育った町を車でドライブするなど正に入居者の夢を叶えようとする支援となっている。発言の少ない入居者には選択肢を投げかけ、家族から新たにこれまでの生活ぶりや食の好み、興味などをアセスメントし今後の支援に反映させていくこととしている。新年度は3年以上に渡り書面審議としていた運営推進会議を対面開催に戻そうと検討しており、参加者と直接顔を合わせる事で、多方面からの意見や提案が会議を更に有意義なものとする事が期待される。送付する書面にはホームで実施した研修会資料を同封し、地域密着型事業所として「ヤングケラー」についても現状や相談窓口を明記して啓発し、地域とともに考えなければいけない社会の課題としている。若い管理者や職員の取組が期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	みゆきの里創立30周年を機に、目指すべき姿を言語化した理念の実践に向けて、玄関やホールに理念(ミッション)を掲げ、常に実践を目指している。	法人の運営理念をもとに「住みなれたまちで、馴染みの職員による安らぎと家庭的な暮らしを提供する」としたホーム独自の理念を掲げ、玄関やホールに掲示している。管理者は年度末など節目の時には理念を振り返り、ホーム運営に反映させたいとしている。	年度末など理念を振り返る機会には内容の変更にかかわらず、見直しを行うことも必要と思われる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者と近隣の公園への散歩に行き、交流を図っている。地域行事への参加は、コロナ禍で休止しているが、広報誌「すまいる」を地域の拠点(郵便局やコミセンなど)に配布し、情報発信している。	これまで継続していた認知症の「ひまわりカフェ」や地域交流の場であった地元や小学校の運動会見学も中止としている。再開が待たれるところではあるが、地域密着型の事業所として多機能ハウスと共同で広報誌「すまいる」を地域の主要機関に配布し、情報発信に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で月2回の認知症カフェ「ひまわり」は休止している。見学者や面会のご家族に対して、認知症の方への支援方法の助言やご家族の思いを傾聴している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回(年6回)グループホーム2ユニットと併設している小規模多機能型居宅介護で運営推進会議を书面開催し、稼働状況・利用者状況・活動報告・ミニ勉強会などを報告している。	運営推進会議は現在も書面審議による関係者への資料送付としている。対面が叶わない分、より多くの情報を発信しようと入居者の現状やホームの取組、各研修状況の他、職員の異動などによる入れ替わりについても報告している。会議メンバーや家族の意見には文章で応じ、ホームの日常が広報誌によりわかりやすく伝えられている。	新年度は状況をみて交流ホールでの直接開催を検討中であるが、会場が別棟であることから初回には是非ホーム内を見てもらい、入居者の様子や施設内を把握してもらうことで参加者に状況確認ができるものと思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議(書面)で地域包括支援センターと連携している。また、必要時に熊本市の介護事業指導室の担当者と連絡をとり、連携を重ねている。ただし、熊本市の介護支援相談員はコロナ禍で休止となっている。	地域包括支援センターとは運営推進会議の議事録送付にて情報を共有し、ホームへの理解が得られている。入居者の認定調査は現在もホームで対応しており、現状を正しく伝えながら応じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束検討委員会を設置し、月1回の会議の場を設け、検討・見直しを行い、身体拘束0件を継続している。また、職員研修(ネット研修)で身体拘束についての学びの機会を持っている。	身体拘束適正化委員会を立ち上げ、月の会議で不適切ケアを通して施設における効果的な虐待防止策について学ぶなど、身体拘束や虐待に対する職員の認識を新にし、それらを行わないケアに努めている。センサーマットを利用する入居者については家族への事前説明と承諾を得ている。	ホームが掲げる身体拘束の指針を玄関内など目に付く所に掲示して、職員の日々の教訓とし、来訪者に向けて啓発されることが期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について、職員研修(ネット研修)で学びの機会を持ち日常のミーティングでの喚起など、虐待防止への意識付けに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について、職員研修(ネット研修)で学びの機会を持っている。また、ご利用者の後見人への状況報告(日常報告や写真の送付)を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書の内容を丁寧に説明し、十分な理解が得られるよう努めている。また、介護報酬改定時には、同意書など文書説明で承諾を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所玄関に意見箱を設置し、ご意見を掲示できるよう整備している。また、事業所内での苦情検討委員会で予防策の検討や法人全体で苦情解決第三者委員会を開催(書面)している。	家族の提案により意見箱を作り直し、いつでも投函してもらうように工夫したものの活用には至っておらず、職員は家族アンケートを実施してホームへの意見を求めている。出された意見や要望は記録に残し、早めの対応を図っている。入居者が自ら意見や要望を口にされることは少ないが、食や外出などについて選択肢を投げかけながら入居者の思いに添うよう努力している。	家族の意向把握のため、ホーム独自でアンケートを実施しているがせっかくのアンケートが今後の支援に反映されるよう内容の検討が必要と思われる。設問によっては入居者向けといったものも見られ、食事の満足度や入浴、排泄といった内容については直接入居者に聞き取るなど検討いただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ユニット合同で月1回、定期ミーティングを開催(書面開催を含む)し、ケアや業務内容だけでなく、労務管理等についても意見交換をしている。また、随時、個別面談を行い、意見を聞く機会を持っている。	ユニットの合同会議では入居者への食事提供について汁物の温度や具材の食べやすさについて改善に向けた活発な意見が出されている。管理者は職員がいつでも意見や要望を発言できるよう年2回の個人面談の他、普段から話を聞くように努めている。広報誌を通し顔写真を添えて職員の異動を報告し、家族へ発信している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入し、各個人の目標や達成項目を評価している。また、処遇改善の上位加算の算定や労働安全衛生院会による職場ラウンド、健康経営の取り組みなど、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアラダー制度を導入し、各職種の各レベルに応じた目標に向けての研修参加やスキルアップを図っている。また、コロナ禍において、オンライン研修の環境整備に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	みゆきの里内の他部署や職種間のネットワークや研修の他、里外では各種研修、地域密着型サービス連絡会への参加、他事業所の見学などにより、交流と情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学を受入、事業所の雰囲気を見て頂く機会を設けている。また、入居前事前面談を行い、生活歴や生活環境など、詳細に情報収集し、職員に周知している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前事前面談、契約・入居時面談において、ご家族から、これからの生活に望むことの聞き取りを行い、入居後も面会、電話連絡、広報誌の配布、月1回の書面報告で情報提供を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の現状を確認し、医療機関等からの情報とご本人、ご家族の要望を聞きながら、計画作成担当者を中心に多職種でアセスメントし、支援内容を決定している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ユニット毎で食事の準備や片付け、洗濯物干し・たたみ、菜園づくりなどを協働して行い、職員とご利用者の双方向の関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へ受診対応や生活用品の買い物を依頼するなど、ご本人との関係性が途切れないように工夫している。広報誌で活動や生活が見えるよう情報発信に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会制限をしているが、窓越しやオンラインの面会でご家族との交流機会を持っている。また、外出行事で馴染みの場所との関係継続を支援している。	現在面会は窓越しで行い、互いの声を聞いてもらうよう携帯電話でやり取りし、遠方の家族とはオンラインで対応している。入居者の要望から復興が進む熊本城を見学した際には、懐かしい姿に感動されたようである。また、入居者に馴染みの行事や、行事を通じた食事支援(夏至御膳や雛御膳など)も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット毎やユニット合同で体操やレク、季節行事の時間を持ったり、食堂座席の配置を工夫し、ご利用者同士の関係性が継続できるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後に生活されている施設や病院へ連絡をとり、経過をフォローしている。また、必要に応じて施設の紹介や相談支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス担当者会議やモニタリングにおいて、アセスメントを行い、心身の状況把握に努め、支援内容を検討している。また、日々の関わりの中で、ニーズを把握し、ご家族協力のもと、個別対応を行っている。	入居者一人ひとりがやりたいこと、叶えたいことを実現する支援「夢プラン」を日々の生活に取り入れ、お城見学、生まれ育った町へのドライブ、地元公園の散歩など入居者の思いが実現できている。職員は外出など大きな支援ばかりでなく、日常の細かいケアについても意見を引き出し、支援に反映させたいとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の協力のもと、自宅での生活の様子や生活環境の聞き取りを行い、基本情報をまとめた書類を回覧し、職員への周知を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントにより、24時間シートを作成し、1日の暮らしを視覚化している。また、ユニット合同ミーティング時やサービス担当者会議にて情報共有し、現状を把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議やケース記録などで情報収集し、モニタリングをもとにミーティングや業務内で対応策を多職種で検討している。書面や口頭にて情報共有し、介護計画へ反映させている。	職員を入居者の担当制としており、意向をプランにつなぐとともに家族との会話の中から入居者のこれまでの暮らしぶりや趣味、特技などを聞き取り、ケアの質を高めようとアセスメントをおこなっている。ケアマネジャーは入居者を取り巻く環境から、家族との病院受診を心待ちにされていることへの継続支援や、食形態への法人栄養士の助言、車椅子による安全な移動など個別に必要な内容を立案している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シートを活用し、日々の様子をケース記録に記載している。特記事項については申し送りノートを活用し、職員間で情報共有や周知徹底できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族と相談しながら、通院送迎や入退院・入退居支援、コロナ禍による面会制限に対しては、オンライン面会やLINEによる連絡など、譲許に応じた個別対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため、地域行事への参加やボランティアの受入は休止している。地域との関わりとして、近隣の公園までの散歩を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同敷地内の協力病院の他、他医療機関の専門医への受診付き添いや訪問診療との連携を図っている。また、年1回健康診断の実施やインフルエンザやコロナワクチンの支援をしている。	同敷地内にある協力医療機関をかかりつけ医とする方が殆どであるが、以前からの医療機関へ家族の対応で受診される方もおられる。その際は情報提供書を作成しスムーズな受診、情報の共有に繋げている。また、訪問診療との連携など希望や必要に応じた医療支援を行っている。口腔ケアについては食後の歯磨きを個々に応じて支援し、治療の必要がある場合、訪問歯科で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師を配置しており、介護職員の気づきや相談に対応し、ご家族・医療機関・関係事業所への連絡・相談・情報交換に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者の入院時、入院先の医療機関への情報提供を行い、関係機関との連携に努めている。また、適宜医療機関へ面会・状態確認に向き、退院に向けた情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化指針について書面で説明し、同意を得ている。重度化が予測される方へは、ご家族や主治医と今後の方向性等について協議している。また、2021年度より、看取り介護を実践。訪問診療や訪問看護との連携に努めた。	入居時に指針をもとにホームの取組、訪問診療、看護についての説明を行い、事前指定書の記入を受けている。家族の思いは変化するものであり、指定書については半年ごとに確認をおこない、相談事項にも応じている。2021年度より看取り介護に取り組んでおり、これまで4名の方の最終を支援している。看取りの際はコロナ禍にあっても対策を施し、家族の面会も受け入れており、居室に泊まり大切な時間を過ごされた家族もおられる。支援後は本人を偲びながら振り返りの機会がもたれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応など、マニュアルを整備しており、随時見直しを行っている。また、定期的に職員研修(ネット研修)で学ぶ機会を持っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアル(火災・地震・風水害)を作成している。コロナ禍のため、実践型の避難訓練は1回のみ実施。また、防災委員会で防災の啓発をしている。	各種災害マニュアルの作成や防災員会により防災の啓発が行われている。今年度は職員のみで夜間対応の避難訓練を1回実施している。反省では声掛けが良かったという意見が出されており、今後も意識を持って臨みたいとしている。	今後は机上を含め、年2回の訓練や地域の協力を得た訓練(運営推進会議の活動も有効と思われる)が必要と思われる。備蓄リストについては最新の内容をホームで管理する事が期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の尊厳の保持のため、各個人に合わせた声掛けや話題提供、好みに合わせた食事提供・散髪などの支援を実施している。また、プライバシーに関する職員研修(ネット研修)で学ぶ機会を持っている。	呼称は苗字や下の名前で一番反応の良い呼び方で対応している。身だしなみやおしゃべりは家族の協力も得て、衣類やお化粧品など本人の好みを把握して支援している。理美容支援は訪問で対応しているが、コロナ禍にあり3か月控えた月もあったようである。職員の守秘義務の徹底やプライバシーの確保について研修により周知を図っている。	トイレや居室など入室の有無に関わらず、プライベートの空間としてノックや了承を得ての入室が必要と思われる。入居者に関わる全ての職員の共有に期待したい。また、入浴支援については同性介助の希望はないか本人・家族への確認の機会を持つ事も必要と思われる。今後の取組が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	年間行事やレク活動など、本人の意向を確認しながら参加して頂いたり、個別対応(散歩・家事・趣味活動など)をしている。また、ユニットを移動して過ごすなど、臨機応変の対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	24時間シートによる1日の暮らしや毎月の予定は設けているが、活動や参加は本人の意思とし、個人のペースに合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に応じて、理美容の依頼を代行している。コロナ禍で外出機会が少なくなっているが、年間行事や受診等の外出の機会でお化粧・散髪・服装など、おしゃれができる機会を設けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手伝いが可能な方には、食事の準備・配膳・下膳・片付けを職員と一緒にしている。個別的に好みのお弁当注文を支援し、食べて頂いている。	食事は系列法人栄養課で調理されたものを活用し、ご飯をホーム内で炊いている。行事食や命のスープ(食材を工夫したポタージュなど)養生食(切干しと高野の煮物、金平ごぼう等)の提供日を設け、食による健康を支援している。個々の嚥下力に応じて準備し、温かいものは温かい状態で提供している。介助の必要な方には食べる直前にエプロンを付けるなど、プライバシーに配慮しながらおこなっている。	食事は最も楽しみなものであり、おやつも含めて入居者の希望や家族からも意見や要望を受けながら取り組まれることを期待したい。行事食以外の日常の食事についても家族へ発信することで安心につながると思われる。また、入居者の代弁者として味や量、盛り付けなど検食を兼ねて、1名でも同じものを摂る事が出来ないか検討いただきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取状況(様子・量)を把握し、水分量も目安を定め、好みの飲み物を提供している。また、定期的に体重測定を実施し、管理栄養士、言語聴覚士、看護師と連携し、栄養状態の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、磨き残しなど必要な支援を行っている。また、歯科医師からの毎月助言を頂き、口腔ケアに活かしている。個別に訪問歯科による治療を依頼している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の有無を確認できる記録を残し、排せつリズムの把握に努めることで、自然排泄へ繋げられる働きかけを行っている。	排泄のパターンを共有し、自立の継続や個々に応じた声掛け・誘導など必要なサポートが行われている。日中はトイレを基本とし、殆どの方がパットを併用しながら布やリハビリパンツで過ごされているが、身体状況からオムツを使用される方もおられる。排泄用品はホームで準備しているが、家族による購入も可能であることを伝えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を記録に残し、食事摂取量や水分量と併せて把握できるようにしている。運動や牛乳の提供等の工夫をし、必要に応じて内服薬の与薬を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に各個人の入浴日を決めて支援している。本人の状態や希望に応じ、曜日や時間の調整を行うなど、柔軟に対応している。	基本的に週2回、1階のリフト浴、2階の個浴を活用しながら、午前・午後の入浴を支援している。一人ずつ湯を入れかえ一番風呂気分を味わってもらえるようにしている。また、職員と1対1でゆっくり入ってもらっており、支援中は“ここだけの話”が弾むようであり、職員は普段気づかない本音や新たな気づきを得ることもあると語っている。時には入浴剤の使用や菖蒲湯なども楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋に湿温度計を設置し、好みの枕や毛布等の持込みを推奨し、安眠へ繋げられるよう生活環境を調整している。不安時は眠れるまで傾聴や傍にいて安心して眠りにつけるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された服薬情報をファイルし、看護師を中心に管理している。随時、看護師から薬の種類や用法の説明を受けている。服薬準備ではダブルチェックを行い、誤薬が起きないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や個人の能力に合わせたレク活動(歌の視聴・読書・塗り絵等)、役割のある活動(家事など)、運動(体操・個別リハ)を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内(畑など)や近隣の公園へ散歩に行っている。また、季節に合わせてくるまでの外出の機会を設けている。	以前のような外出は控えているが、個々の状況に応じ敷地内の散歩や近隣公園の花見、県庁への紅葉見学、神社への初詣等を支援している。また、日光浴も玄関先や2階入居者は、採光の良い南側のスペースに座り外を眺めながら行っている。中には法要に帰省された方や、家族の入院先への面会に出むいた方もおられる。	夢プランとして「飛行機を見に行きたい！」が出されている。一人ひとりの夢プランの実現が期待される。また、感染症への対応や身体状況から戸外に出る事が難しい方もおられ、ビデオやDVD、ユーチューブなどを活用して国内外の花の開花や観光地巡りなど外出気分を味わえるよう、引き続き取り組まれることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にご家族管理であるが、お小遣い程度の金額を管理されている方もいる。必要時には事前にご家族へ説明し、都度持参して頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の協力を得て、希望に応じ電話連絡をし、安心して頂けるように支援している(固定電話・携帯電話・オンライン電話を準備)。葉書が来た際には返信の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は外部業者に委託し、清掃している。食堂は毎回清掃し、清潔保持に努めている。また、リビング壁面に広報誌や食事メニューを掲示するなど、居心地の良い空間になるよう配慮している。	1階、2階に配置されたユニットは壁面や飾り物などそれぞれのユニットが工夫しながら季節感を感じてもらえるようにしている。掃除は外部業者を中心に行われ、リビング食堂は特に毎食後の掃除を徹底し、不快なく食事や談笑が出来るよう配慮している。訪問当日は桃の節句を前に段飾りのおひな様が置かれ、ユーチューブを活用した体操や日課の塗り絵などいつもの時間を過ごされる入居者の姿が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには椅子やテーブル、テレビ前にはソファを準備し、好きな場所で過ごせる環境を整備している。また、観葉植物やカーテンを使用した他者の目を気にせず、くつろげる空間づくりを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇、タンス、ラジオ、毛布など、自宅で使い慣れた物を持参して頂き、居心地の良い環境づくりに努めている。	現在は感染症への対応から、入居前に動画で居室を含めホーム内を見てもらい、持ち込み品の参考にしてもらっている。また、歩行や移動の妨げにならないような大きさなどについて説明している。心の拠り所となる仏壇や家族の写真、使い慣れたラジオや着慣れた衣類など、家族の協力により持ち込まれている。居室によっては隣接する公園がよく見え、季節に応じた樹木の開花、大好きな飛行機の飛ぶ様子など楽しんでいる。現在は衣替えをはじめ、居室の環境整備は職員が中心に行い、不足などがあれば家族へ伝えている。	面会を控えている家族にとって居室内の様子は気になる点と思われる。掃除や換気、引き出し内の整頓など取組の状況を家族へ伝えていくことで安心につながると思われる。また、コロナの状況を見ながら家族の協力を得て、個々に応じた居室作りに努めていかれる事を期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることや分かることを最大限活かせるようリスクマネジメントの観点から福祉用具を活用しながら安全面での配慮を行っている。		